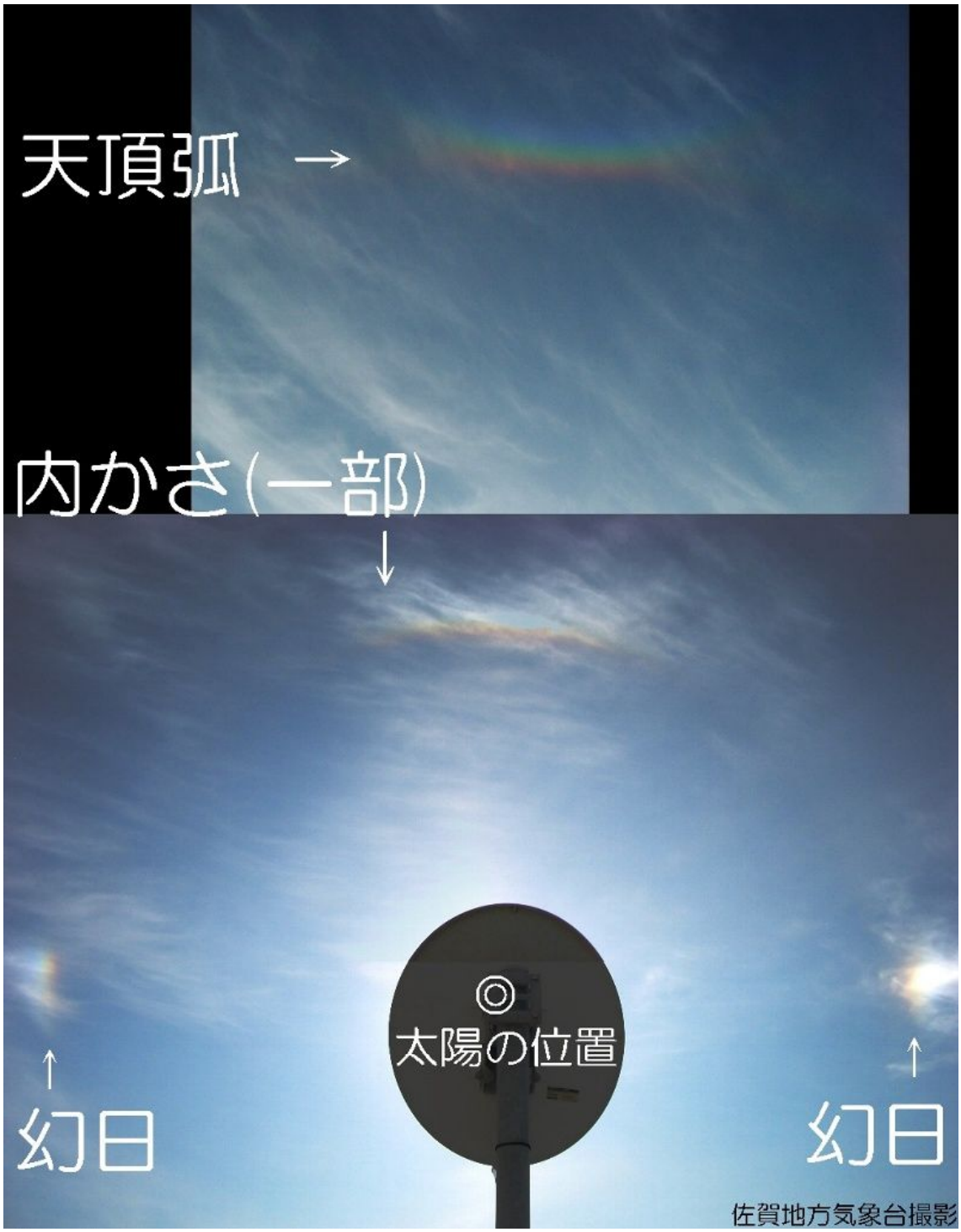
平成 19 年 11 月 13 日に佐賀県上空で見られた幻日



平成 19 年 11 月 13 日午前８時頃から 10 時過ぎにかけて、佐賀県の広い範囲で“幻日”が見られました。これは、大気中に浮遊する氷の結晶（氷晶）のために、太陽や月の光が屈折または反射して生ずる光の輪・弧・柱・点などを指す、“かさ”と呼ばれる大気中の光学現象（大気光象）のひとつです。

この日は、太陽の左右に“幻日”が１対、上方に“内かさ”の一部の明るい部分、さらに上方に“天頂弧（俗称：さかさ虹）”と呼ばれる、“内かさ”とは逆の曲率を持つ虹色の光が見られました。

“かさ”現象自体はさほど珍しい現象ではありませんが、内かさ・幻日・天頂弧の３つが同時に見られるのは比較的珍しいことです。